

大会名称: 第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: City Arena Pilsen(チェコ・プルゼニ)

試合区分: No. 214 女子 予選ラウンド・グループC コミッショナー: Alison MUIR(ENG)

期 日: 2014(H26)年6月29日(日)

主審: Susana GOMEZ LOPEZ(ESP)

開始時間: 15:45

副審: Andreia Regina SILVA(BRA), Timoci Matai SAILADA(FIJ)

終了時間: 17:30

日本 (通算1勝1敗)	○ 65	17 -1st- 12 13 -2nd- 10 24 -3rd- 10 11 -4th- 4 -OT1- -OT2- -OT3-	● 36	メキシコ (通算0勝2敗)
----------------	---------	--	---------	------------------

第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会は第2日目。開始早々、日本は#6西岡のゴール下シュートで先制すると、#8遠藤の3Pシュートらで続き、開始3分で11-0と主導権を握る。しかしその後、メキシコは連続3Pシュートらで粘りを見せ、3-2ゾーンディフェンスで日本を苦しめる。日本はリードを保つものの、ミスが続いて点差を離せず、30-22と8点差で前半終了。後半に入り、日本は#8遠藤が相手のポイントガードを苦しめるディフェンスでリズムを狂わすと、スティールから速攻で次々と得点につなげ、一気に畳み掛ける。第3ピリオドを終えて22点差をつけた日本は、その後もメンバーを入れ替えながら優位に試合を進めていく。65-36、日本は全員出場で快勝し、今大会初勝利を飾った。

第1ピリオド、日本は#4加藤、#5水野、#6西岡、#8遠藤、#11中田でゲームをスタートする。開始早々、日本はジャンプボールからの速攻で#6西岡が得点すると、続けて#4加藤のジャンプシュートや#8遠藤の3Pシュートが決まり、開始5分で11-4とリードを奪い、流れを掴む。しかしその後、メキシコの3-2ゾーンディフェンスに苦しみ、ミスが目立ち始めると、その間、メキシコ#5RIVERA、#10ORTIZに3Pシュートを許し、我慢の時間帯が続く。終盤、#5水野のジャンプシュートでリズムを取り戻した日本は、17-12の5点リードで終了する。

第2ピリオド、日本は#5水野、#6西岡、#10脇、#13赤木、#14赤穂とメンバーを入れ替えゲームに入ると、序盤からメキシコの3-2ゾーンディフェンスに苦しみながらも、#5水野の3Pシュートや#6西岡のポストプレイで得点を重ねていく。一方のメキシコも、#14HUIDOBRO、#8MARTIN DEL CAMPOが果敢にドライブを仕掛け、日本のファウルを誘い、フリースローで加点する。一時、20-16と点差を詰められる日本だが、途中交代の#8遠藤がスティールからレイアップシュートや3Pシュートを沈め、30-22とメキシコに主導権を譲らず前半終了。

第3ピリオド、日本はスタートの5人に戻してゲームに入ると、#8遠藤が相手のポイントガードにプレッシャーをかけ、リズムを狂わす。するとそこから早い展開で、#4加藤、#5水野の3Pシュート、#6西岡のゴール下、#8遠藤のジャンプシュートと得点につなげ、開始5分には46-27と大きくリードを広げる。一方のメキシコは、#5RIVERAの3Pシュートや、#4PEREZ、#7RODRIGUEZのゴール下で反撃のチャンスを伺うが、追い上げには至らない。その後、日本は#9中村、#12梅沢、#13赤木、#14赤穂、#15馬瓜とベンチメンバーを送り込み、2-2-1のゾーンプレスを仕掛けて、一気に畳み掛ける。54-32、日本が22点差をつける大量リードで第3ピリオド終了。

第4ピリオド、日本は第3ピリオド途中に投入した5人で試合に入ると、追い上げたいメキシコは必死で反撃を仕掛ける。だが日本は2-3ゾーンディフェンスで相手に得点を与えずに守ると、そこから#9中村の速攻、#12梅沢のゴール下シュートらで得点を挙げる。さらには途中交代の#7木村が3Pシュートを決めて、さらにリードを伸ばす。一方のメキシコも、#4PEREZ、#7RODRIGUEZを中心に最後まで粘り強く攻撃を仕掛けるが、そこまで。最終的に、65-36と29点差をつけて快勝した。

次戦、休息日を挟み、7月1日(火) 15:45(現地時間)より、予選ラウンド(グループC)最終戦となる第3戦を同じく1勝1敗のスロバキアと対戦する。

担当: 公益財団法人日本バスケットボール協会